旧閑谷学校鳥瞰図

① 校門（鶴鳴門）

屋根は備前焼の本瓦葺き、棟に鯱を載せた正門。

旧閑谷学校の正門で泮池の石橋と聖廟を結ぶ中間に位置します。

② 閑谷神社

創始者、池田光政を祀る神社。

閑谷学校の創始者、池田光政を祀っています。もとは「東御堂」、または光政の諡をとって「芳烈祠」と呼ばれていました。本殿内には御神体として光政の座像が安置されています。

③ 聖廟

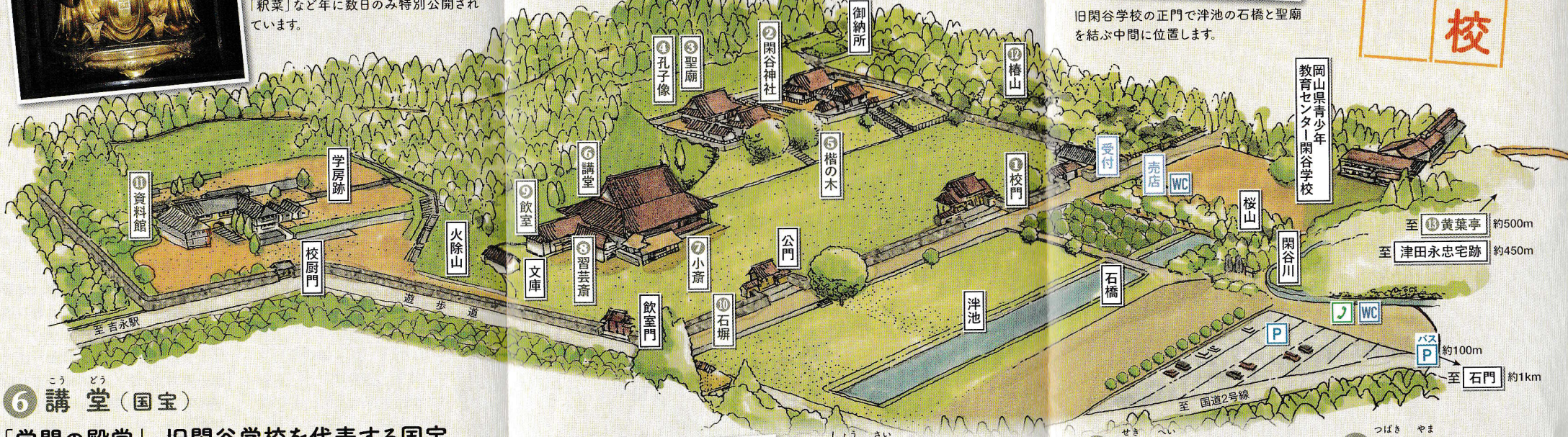
儒学の祖、孔子の徳を称える最も重要な施設。

孔子廟、西御堂とも呼ばれ、最も重要な施設として中央の一番高い所に配されています。奥の大成殿には孔子像が安置され、毎年10月には儒学の祖、孔子の徳を称える「釈菜（せきさい）」の儀式が行われます。

④ 孔子像

金色に輝く、京都の名工による金銅像。

この孔子像は、朱子学者・中村惕斎に委託して、京都の名工が鋳造した「金銅像」です。孔子像は椅子に腰掛けたもので高さは90cm、朱塗りの八角形の聖龕（せいがん）に安置されています。毎年1月4日の「読初の儀」、10月第4土曜日の「釈菜」など年に数日のみ特別公開されています。



⑥ 講堂（国宝）

「学問の殿堂」、旧閑谷学校を代表する国宝。

講堂は入母屋造り、しころ葺きの大屋根と火灯窓が壮重な独特の外観を形作っています。創建当時は「茅葺き」でしたが、その後改築され現在の堅牢な「備前焼瓦」に葺き替えられました。内部は十本の欅の丸柱で支えた内室と、その四方を囲む入側とで構成されています。また、拭き漆の床は生徒たちによってよく磨かれており、火灯窓から入る光をやわらかく反射させています。

⑦ 小斎

藩主が臨学の際に使用する、御成の間。

屋根はこけら葺きで簡素な数寄屋風に作られています。現存する建造物の中では、最も古い姿を残しています。

⑧ 習芸斎

農民たちも学んだ、教室として使われた施設。

毎月三と八の付く日は「五経」と「小学」、朔日（ついたち）には農民も聴講することができる「朱文公学規」の講釈が行われました。

⑨ 飲室

教師と生徒たちが、湯茶を喫した休憩室。

中央の炉のふちには「斯爐中炭火之外不許薪火」と彫り込まれており、火の使用に厳重な注意がはらわれていました。

⑤ 楷の木

四季を通して情緒豊かな「学問の木」。

聖廟前に植えられた二本の楷の木は、中国山東省曲阜の孔林から種子を持ち帰り苗に育てられた内の2本です。紅葉の季節には美しく色づく楷の木を見ることができます。

⑩ 石塀

300年を経て今も整然たる姿をたたえる。

学校全体を取り囲む765mにも及ぶ石塀は、備前焼瓦と並んで、旧閑谷学校に独特の景観を生み出しています。

⑪ 資料館

明治38年の姿が残る、校舎を利用した資料館。

明治38年（1905）、学房跡に「私立中学閑谷黌」の本館として建設されました。現在はその本館部分を資料館として公開し、旧閑谷学校の貴重な資料が展示されています。

⑫ 椿山

守護の願いが込められた、神々しい雰囲気の椿たち。

椿山には約400本近いヤブツバキが植えられています。奥には池田光政の髪・爪・歯などを納めた供養塚「御納所」もあります。

⑬ 黄葉亭

生徒から儒者、文人までが茶を楽しんだ憩いの場。

文化10年（1813）に来客の接待や教職員・生徒の憩いの茶室として建てられました。頼山陽や菅茶山など儒者や文人を迎え親交を結ぶ場としても使用されました。